

カナダ入国レポート

2020年8月 トロント商工会

2020年9月 追記

【概要】

COVID-19の影響により、保留されていた人事異動が Essential Worker のみ許可され、複数の新会員が赴任された。今後、カナダへ異動してくるであろう会員企業の皆様への情報提供として、2020年3月以降に日本或いは他国（前任地）から、カナダへ入国された方々の体験談をまとめた。

（本レポートは、会員からの情報をもとに作成したもので、掲載事項を確証するものではないことをご了承下さい。レポートは新しい情報が入り次第随時更新予定です。）

■日本又は前任地での出国手続きについて

- ・成田出国時、エアカナダでのチェックインカウンターにて搭乗できるかステイタスの確認、**在日カナダ大使館へ連絡**をいれた。その間 20 分程待機。
- ・羽田空港の ANA チェックインカウンターにて、**バンクーバーの入国管理局（エアキャリア向けのセンター）**へ必要書類や会社名等の確認をしてもらった。1 時間程の時間を要した。
- ・羽田空港にてチェックインの際、窓口職員の間で「この人は入国できるのか」と議論が始まり、タブレットで**カナダ移民局の HP を調べ始めた**。移民局発行の書類などを提示し、就労許可証手続き済みを伝え、発券。10 分程の時間を要した。

※日本以外の前任地から出国された方々は、時期にもよるかと思うが、特段問題もなくスムーズだった。

-今回の渡航の為に、特別に手配/要求された書類

- ・オンライン申請でのワークパーミット取得：通常 2-3 ヶ月かかるが、申請から 2-3 週間で Approval Letter を取得できた。

※2 ヶ月かかったケースもある

- ・ エッセンシャルサービスであること、**今入国する必要性があることを説明する文書**
- ・ 海外保険加入証明
- ・ 無犯罪証明書：通常は住民票のある警視庁/道府県警察本部で取得するが、特別対応をしており、現住所の警視庁/道府県警察本部で取得可能。取得まで通常1週間程。他国の無犯罪証明はクーリエを支払えばすぐに取得できた。ただし、無犯罪証明をまったく要求されないまま就労査証が発行されたケースもある。

※上記書類に関してましては、要求されない場合もあります。

■機内の様子について

- ・ 乗客がそもそも少なかったため、ソーシャルディスタンスは保たれていた。
- ・ 一部エアラインは前後に乗客がいたり、満席に近かった。
- ・ ANA のビジネスクラスの機内サービスは通常通りの機内食が出た。ただし空港内のレストランは全てクローズされていた。
- ・ 搭乗ゲート前での体温測定、添乗員はマスク、グローブ、防護服を着用していた。
- ・ ペットボトルの水とマスク、手袋のセットが配られ、食事はお弁当、飲み物が提供された。
- ・ サンドイッチ、アルコールの提供があった。

・ ビジネスクラスを利用。食事は弁当、飲み物は限定された種類のみ提供だった。通常のサービスよりかなり省略された印象。

- ・ 一部の添乗員が防護服を着用していた。

・ JAL (成田⇒バンクーバー) へ搭乗。搭乗前に体温測定があり、エコノミークラスには相応に乗客がいた。ビジネスクラスは、ほぼ空席だった。バンクーバー⇒トロント便 (エアカナダ) は乗車率7割程度だった。

■入国審査について

<バンクーバー経由>※バンクーバーにて入国審査

- ・ 必要書類を提示し、時間もかからず問題なく入国できた。
- ・ 問診会場が設置されており、問診表への記入をした。

- ・ **ワークパーミットの承認済みレター**を持参し、イミグレにて査証を発行してもらったところ、3時間かかり予約便に乗れなかった。次の便へ変更した際、荷物は自動的にトランスファーされ、同じ便にアサインされていた。

- ・ 一時帰国の場合、既にビザを所持しているため出国・入国審査ともスムーズに行われた。

- ・ 機内にて「Traveler Contact Information Form」配付され、到着後の滞在先、連絡先等を記入した。入国審査前に機械にて疑わし症状の有無を申告し、入国審査時「Traveler Contact Information Form」を提出、その後隔離に関する案内がされた。ArriveCANを予めダウンロードしていたが、使用しなかった。

- ・ 入国時に10分ほどのインタビューを受ける。内容は、何の仕事をしているのか、カナダにはどのくらい滞在するのか、他国の市民権を持っているか、等を聞かれた。なお、滞在期間について3~5年と答えたところ、曖昧だと言われたのできちんとした滞在期間を予め知っておくべきだと思った。

- ・ 航空便、船便の書類（B4 E Form）にスタンプをもらう必要があり、Packing Listの価格（VALUE）がCAD建で書くべきところ、日本円で書かれていたので受取りを拒否された。全てCAD建で書き直したところ、品名（DESCRIPITON）の記載が曖昧なので受け取れないとさらに拒否。Packing Listの全ての品目にブランドを補記（例えば、衣類にはUNIQLOと記載）、何とか受理してもらえた。ここで30分程度を要したので、バンクーバーでB4 E Fromの手続きをされる方は注意されたい。（移民局の窓口にて）

<アメリカ・他国経由>※ピアソン空港にて入国審査

- ・ 乗り換えは基本的にはスムーズだった。渡航目的の質問をされたが、ワークパーミットの事前承認がされている旨説明したところ、それ以上の質問は受けなかった。

- ・ 入国審査時に、事前取得していたワークパーミットの内容確認、正式発行（帯同家族の分も含め）の20分程要したがそれ以外はとてもスムーズだった。バイオメトリクスも要求されず、問い合わせたところ、次回渡航時で良いとのこと。滞在先の住所を一人ずつ所定の用紙に記入した。

- ・ 米国経由の場合、ワークパーミットを従来通りカナダ入国時に取得できると情報の更新があり米国経由で入国へ変更。事前にワークパーミットをオンライン申請していたが、到着時にはまだIN progressだった。オフィサーへその他の必要書類を提示したが、**今入国する必要がある**

のかと断られた。20分後、再度呼ばれ一時間ほど事情を説明したところなんとか査証が発行された。

-入国時役立ちアプリ-

ArriveCAN

到着 48 時間以内に必要な情報を入力すると、6桁の番号が表示される。これを入国時に提示することで自己隔離プラン等の申請が終わるので、入国管理局手続きの時間短縮になる。アプリ自体は不安定で操作性も良いとは言えない為、念のため機内で配布される用紙に記入しておいた方が安全。

その他入管時時間短縮アプリとして、E Declinationを活用されてる方もいた。

■隔離についての指示について

- ・外出をしない・高齢者を避ける等の注意事項と、罰金や伺わしい兆候が表れた時の連絡先が記載されたレターを受け取った。

- ・口頭で 14 日間の隔離を念押しをされた。

- ・サービスアパートメントを借りている旨伝えたところ、食事や移動についてのプランを聞かれたのみ。

■隔離場所への移動～隔離先について

- ・公共の交通機関は使用できないため、前任の駐在員による送迎。

主な隔離先：自宅（前任者より引継ぎ）、レンタルコンド、会社の研修用の施設、ホテル

- ・会社の車を空港の駐車場に届けてもらい、隔離先まで運転。（暗唱番号によるロック解除）誰とも接触はしなかったが、寂しい到着だった。

- ・パンデミック初期の 3 月に入国し、自主隔離をホテルでしていたが、3 日目に出されてしまった。その後、空いているホテルへ移動した。

■隔離生活中の在宅確認について

- ・電話による確認が 2 回（音声）、メールを 10 回受信

内容：一般的な隔離期間の注意。

- ・ 13 日目に警察官 2 名による突然の訪問

内容：名簿を見ながら、家族を含めた在宅確認を受けた。質問等はなし

- ・ 電話による確認が 2 回（音声、肉声）、メールを受信

内容：入国後、真っ直ぐ隔離場所へ向かったか、症状の有無、他人と接触していないか等を聞かれた。メールは基本的な注意点。

- ・ 一度も在宅確認がなく、逆に不安になった。

・ 隔離中の在宅確認はされなかった。日本で隔離先のサービスアパートメントを予約する際に自主隔離で使用することを予め伝えたとこ、到着後はサービスアパートメントによる管理を受けた。（デリバリー対応のお店の紹介や、受取り時の対応など）。

・ 3 日目、10 日目に電話（肉声）にて確認。10 日目に連絡はバンクーバーからだったようで、トロントにいる旨伝えたとこ、管轄外ということで切られた。その他メールにて隔離中の注意事項等を数件受信。

■ 隔離生活中の食料品や日用品調達について

- ・ 日本滞在中にリストアップし、現地の駐在員に買い出しをしてもらった。
- ・ スーパーマーケットのデリバリーの利用
- ・ UberEats の利用

■ 隔離生活中に一番不便を感じたことについて

- ・ 銀行口座の開設や運転免許証の申請などの諸手続き。アポイントメントが必要な場合がほとんどの為、通常より時間がかかる。
- ・ デリバリーのタイムラグがあり、必要な時にすぐに手に入らない
- ・ 外に出られないという精神的な圧迫
- ・ Wi-Fi が途切れたことがあり、不安を感じた。
- ・ 国によって温度差があり、本社が事態を理解してくれなかった
- ・ 初めての国なので程度がわからない

・オンラインで従業員と面談などしていたが、やはり対面でないと雰囲気や気持ちの伝え方など難しい部分があったと感じた。

・日々の食事

・サービスアパートの暖房が付かず寒かった。防寒具は十分に持ってくるべき。

・UberEats を利用したところ、クレジットカードが使用できなかった。⇒Paypal で決算。

■隔離生活を終えた感想

・ Work from home の定着により、隔離中でも業務に支障がなく、退屈するということがなかった。

・カナダはデリバリーが発達しているため、外出しなくとも生活ができることがわかった。

・オンラインでの関係企業様へのご挨拶や歓迎会をしていただき、それなりに楽しかった。

・研修員用のユニットに滞在していた為、過去の研修員が取りためていた情報誌を読んで情報を収集することができた。

・ようやく鳥かごの中から解放された気分だった。

・ようやく終わったという気持ちだった。14日は長かった。

・非人道的だと思った。庭など屋外へ出れるスペースがあれば良かったと思う。

・お酒の備蓄が必要

・プロGRESSが見えないことによる仕事や生活についての焦りがあった。

・外に出れるのはいいものだと感じた。2日目あたりで辛くなった。

・庭があると気分が全然違うと思う。バルコニーがあったので、夕方はそこで本などを読んで過ごした。

・ようやく終わったという気持ち。異国の地での隔離生活はつらい。

ご家族の入国について

■出国・入国時について

・事前にカナダ大使館に問い合わせたところ、**家族が入国できるのは永住権を持っている家族が対象であり、基本的には駐在員の家族の入国は NG** とのことだった。**事前に IRCC に許可をもらえば入国できる**とのことだったので、VISA 更新等をお願いしている弁護士事務所を通じて許可をもらい、それを印刷して家族に持参させたところ、バンクーバーで Visitor Record を発行してもらい、すべてスムーズに進んだ。

■入国後、空港から隔離先までの移動について

・トロント空港からは、Limo で移動。事前に海外から到着が対応してもらえるかを確認し、マスクの着用などの条件を言われたが対応をしてもらうことができた。

■隔離生活中の在宅確認について

・飛行機の中で一人一枚、滞在中の連絡先などを所定の用紙に記入。そこに私の携帯番号を記載。そのため、カナダ政府からの問い合わせが何回も私の電話（音声ガイダンス、直接の電話、Eメール）にあり、家族は別の場所で隔離していることを伝えると、家族と話をするので家族の電話番号を教えて欲しいとわれた。また、英語が話せないというと、**通訳を付けて電話をするといわれた**。結局、本当に通訳を付けて娘の携帯に電話があり、庭にも出るなど言われた。